

都農町立都農小学校 令和6年度 学校運営協議委員評価書

【評価】 4 よくあてはまる 3 だいたいあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 ほとんどあてはまらない

	具体的な実践	自己評価	学校関係者評価	感想・意見等(全体を通して)
学力向上	1 学力の定着	3.0	3.4	○ 前回の春の参観時に比べ、低学年の教室が落ち着いてました。各学年の教室、廊下などの展示物に興味がありました。1年生の木の絵、4年の習字、五年生のイラストの絵、6年の各係の事、3年は見に行けませんでした。
	2 個に応じた指導の充実 (個別指導、特別支援教育、教育支援配置)	3.1	3.2	
	3 ふるさと教育の充実(地域の交流、体験活動等)	3.2	3.2	
	4 読書習慣の定着	2.6	3.2	
豊かな心の育成	5 望ましい人間関係の構築 (道徳教育の充実)	3.1	3.0	○ 朝の登校時に、横に広がって歩いている登校班が時々います。
	6 児童の居場所づくり(SC、ほっとルームの活用等)	3.2	3.8	
	7 基本的な生活習慣の育成 (規範意識、あいさつ等)	3.1	3.0	
	8 いじめの未然防止 (いじめアンケート、教育相談の実施等)	3.1	3.2	
体力づくり	9 児童の体力向上(体力向上プラン、体育科学習等)	3.0	3.2	○ 中町児童公園で、子ども達が元気に遊んでいます。しかし、ごみが多くなっています。公園にゴミ箱は設置していません。自分で食べた、お菓子の袋、ジュースの空き缶は、持って帰るように指導してください。
	10 健康安全への意識の高揚 (食育の推進、健康診断等結果の活用)	3.2	3.4	
	11 安全教育の充実(風水害・不審者避難訓練、交通安全教室等)	3.3	3.4	
	12 望ましい生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん、ノーマディア、歯磨き指導等)	2.8	3.2	
連携	13 情報発信 (学級通信、学校だより、HP等)	3.0	3.2	○ 学校は、もっと地域の人や保護者の助けを借りていいと思います。「こういうことをしてほしいけど、誰かいませんか。」と投げかけてください。
	14 地域との連携 (PTA活動、地区の祭り等、三先生を偲ぶ会等)	3.2	3.2	

都農町立都農小学校 令和6年度 自己評価書

【評価】 4 よい 3 おおむねよい 2 あまりよくない 1 よくない

	具体的な実践		4	3	2	1	方策別	総合	具体的な成果及び今後の方策
学力向上	1 学力の定着	教師	7%	87%	7%	0%	3.0	3.0	日々の授業実践や主題研究を通して、宮崎県教育委員会が進める「ひなたの学び」を本校なりに展開できていると考える。今後は、学力調査結果等も踏まえて、日々の学習の充実を図っていく。
		児童	18%	62%	12%	8%	2.9		
		保護者	23%	56%	15%	6%	3.0		
	2 個に応じた指導の充実 (個別指導、特別支援教育、教育支援配置)	教師	13%	80%	7%	0%	3.1	3.1	配慮を要する児童に対して、児童の実態に応じた学習形態等を提供できていると考える。また、年度途中においても、可能な限り児童のニーズに対応してきた。
		児童	44%	40%	14%	2%	3.3		
		保護者	23%	71%	—	6%	3.0		
	3 ふるさと教育の充実 (地域の交流、体験活動等)	教師	27%	67%	7%	0%	3.2	3.2	地域素材・人材等を活用した体験活動や地域学習を展開することができた。今後も、地域学校協働本部等の関係機関と連携しながら、更なる充実を図る。
		児童	44%	42%	12%	2%	3.3		
		保護者	36%	57%	5%	2%	3.3		
	4 読書習慣の定着	教師	7%	60%	33%	0%	2.7	2.6	学校図書館の整備を行うなど、読書の環境を整えてきた。読書習慣が定着しているという意識が低いため、児童が、読書量を実感できるように、現在取り組んでいる実践を改善していく。
		児童	12%	18%	42%	28%	2.1		
		保護者	17%	54%	23%	6%	2.8		
豊かな心の育成	5 望ましい人間関係の構築 (道徳教育の充実)	教師	7%	60%	33%	0%	2.7	3.1	児童間のトラブルは少ないことから、よりよい人間関係を構築できていると考える。今後も、授業や行事等で、児童同士のふれあいが充実するように計画・実践していく。
		児童	70%	20%	10%	0%	3.6		
		保護者	21%	60%	17%	2%	3.0		
	6 児童の居場所づくり (SC、ほっとルームの活用等)	教師	13%	80%	7%	0%	3.1	3.2	ほっとルームが積極的に活用され、児童が安心して登校できる雰囲気づくりができています。また、児童や保護者の悩みには、SCを効果的に活用することで、解決に向かうことができています。
		児童	60%	26%	10%	4%	3.4		
		保護者	30%	55%	12%	2%	3.1		
	7 基本的な生活習慣の育成 (規範意識、あいさつ等)	教師	0%	80%	20%	0%	2.8	3.1	朝のあいさつ運動など積極的に展開しているが、成果が十分でないと感じている職員が多い。今後も、児童が中心となって進める活動を工夫・改善しながら根気強く取り組んでいく。
		児童	35%	53%	8%	4%	3.2		
		保護者	32%	57%	10%	1%	3.2		
	8 いじめの未然防止 (いじめアンケート、教育相談の実施等)	教師	27%	73%	0%	0%	3.3	3.1	大きないじめ問題はないことから、未然防止が充実していると考え。今後も、定期的ないじめの実態把握(アンケート)や児童の観察を通して、いじめの未然防止や早期発見に努めていく。
		児童	46%	26%	6%	22%	3.0		
		保護者	24%	68%	7%	0%	3.2		
体力づくり	9 体力向上 (体力向上プラン、体育科学習等)	教師	0%	73%	27%	0%	2.7	3.0	柔軟性や筋力が全国平均を下回っており、全体として体力が低い傾向にある。体育過学習を核として、運動に親しむ資質・能力を高め、体力向上につながる体育過学習を改善していく。
		児童	49%	31%	20%	0%	3.3		
		保護者	21%	62%	17%	0%	3.0		
	10 健康安全への意識の高揚 (食育の推進、健康診断等結果の活用)	教師	7%	80%	13%	0%	2.9	3.2	栄養教諭や養護助教諭が学級担任と連携し、食育や虫歯予防、性教育の授業を実施してきた。おし歯治療率が約60%であり、今後も保護者への啓発を続け、更なる治療率の上昇を図る。
		児童	61%	27%	12%	0%	3.5		
		保護者	24%	66%	10%	0%	3.1		
	11 安全教育の充実 (風水害・不審者避難訓練、交通安全教室等)	教師	0%	93%	7%	0%	2.9	3.3	計画通りに避難訓練等を実施してきた。大雨を想定した風水害避難訓練では、実際に保護者に児童の引き渡しを行い、その在り方を検証できた。今後も継続して各教育活動を進めていく。
		児童	68%	30%	2%	0%	3.7		
		保護者	38%	57%	5%	0%	3.3		
	12 望ましい生活習慣 (早寝・早起き・朝ごはん、ノーマディア、歯磨き指導等)	教師	0%	57%	43%	0%	2.6	2.8	保護者と職員・児童の意識に差が見られる。今後も、保健だよりで望ましい生活習慣について啓発するとともに、学級活動等の授業を通して、望ましい生活習慣の形成を図っていく。
		児童	16%	44%	38%	2%	2.7		
		保護者	25%	63%	12%	0%	3.1		
連携	13 情報発信 (学級通信、学校だより、HP等)	教師	47%	53%	0%	0%	3.5	3.0	児童の学校の様子等を各媒体を通して積極的に発信している。児童の認識が薄いため、児童にも学級通信等に載せられている内容を把握させ、自分達の頑張りを自己認識させるように努めていく。
		児童	12%	18%	44%	26%	2.2		
		保護者	37%	55%	7%	1%	3.3		
	14 地域との連携 (PTA活動、地区の祭り等、三先生を偲ぶ会等)	教師	33%	67%	0%	0%	3.3	3.2	あらゆる場面において、PTAの多大な協力をいただきながら教育活動を進めている。今後も常に各PTA活動の在り方を役員の方々から見直ししながら、よりよい在り方を目指した改善を図る。
		児童	31%	39%	16%	14%	2.9		
		保護者	41%	57%	2%	0%	3.4		